

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書（企画・引率者用）

平成 28 年 8 月 30 日

所属・職名：大学院医学系研究科 保健学専攻 基礎看護学講座・准教授
氏名：山口典子

研修期間：平成 28 年 8 月 8 日～平成 28 年 8 月 19 日

研修先：英文 Faculty of Nursing and Public Health, Khesar Gyalpo University of Medical Sciences of
Bhutan

：和文 ブータン KG 医科学大学、看護・公衆衛生学部

○研修成果

看護学3年次生2名と共に、ブータン王国における実際の看護教育や臨地実習を体験し、日本とブータンとの教育体制、教育方法の違いを学び、ブータンの看護教育の現状に対する理解を深めることが出来た。また、国立病院やヘルスユニットを訪問し、ブータンの医療事情を視察すると共にブータンの厚生省を訪問、現在は無料であるブータンの医療に対して今後どのような政策をとっていくのかを伺うことができた。

本年度は5年間の大学間協定の最終年度にあたるため、KG 医科学大学の学長とお会いし、大学間協定延長について快諾を得た。

○研修全般にわたる感想

看護師を養成する学部の講義や学生の臨地実習に参加させて頂き、ブータンの学生生活を体験することが出来た。全寮制であり、学生は2週間の講義期間と隣接する国立病院での2週間の実習期間を繰り返す。日本のように大学の附属病院ではないので、病院での実習が教育の一環としてではなく、病院側ではマンパワー確保の意味合いが強いため考え方の相違から軋轢が生じることもあるのではないかと推察された。学生は夜8時から朝8時までの夜間シフトにも配属され、それは2日間連続するという。かなりの緊張をしいられ、寮生活の雑用も含めて相当疲労するのではないかと思われた。しかし講義中は先生が静止するほど、うるさく発言、質問をしており積極的に知識を吸収しようという態度が印象的であった。本学では学生は非常に勉学に恵まれた環境にありながら、講義では消極的な態度が目立つのとは対照的であった。ブータン研修に参加した学生も、学生の積極性に感銘をうけたようであった。また厳粛な卒業式、学生主催の弁論大会にも出席する機会を与えて頂き、貴重な経験をすることが出来た。

